

協働ロボット部品加工参入

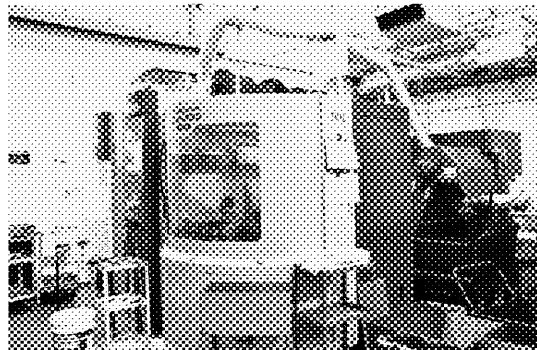
サノヤス精密 事業領域を拡充

サノヤス精密工業（兵庫県三田市、山本伊佐雄社長）は、ロボット関連部品の機械加工に本格的に乗り出す。既に産業用ロボットの周辺部品加工を行っているが、需要拡大が見込まれる協働ロボットなどの部品加工にも参入。すでに数社から引き合いが来ているという。同社は機械加工事業では半導体関連部品が主力だが、ロボット分野に拡大することで事業基盤を強化する。2030年度に全社で22年度比36%増の売上高30億円を目指す。

サノヤス精密工業の「メカセンター（MC）機械加工事業は全社の売上高の約70%を占める主力事業。数値制御（NC）旋盤やマシニング

センター（MC）など約100台の工作機械を備え、幅広いサイズの加工に対応。加工の工夫で

異形加工にも対応できることなどを強みとする。現在は半導体関連部品が稼ぎ頭となってい



新設した5軸加工機。現在は特殊用途の加工にとどまるが、今後加工工程の短縮などを強みに、新規顧客開拓を狙う

るが、昨今の半導体需要低迷などで業績が下ぶれたことなどから、事業領域を広げることと安定的な事業基盤構築を狙う。

加えてロボット分野では産業ロボットでの実績や知見などを生かして複数社から引き合いが来ており、一部は量産化に向けた試作を重ねている。山本社長は「簡易型ロボットや協働ロボットなどの部品加工にも参入していきたい」と新規分野での受注拡大に向け意欲を示す。

同社は機械加工事業と、農業機械のエンジン周辺部品であるユニバーサルジョイントの製造を主力とする。